

ヴォルトガール コトノハ・アカネ×Fallout76

ARice アリス

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

世界大戦は過熱してゆき、大戦は激化  
ついに世界は核の炎に包まれた

それでも人類は諦めず、地下に長期居住避難地を造り上げ、のちの世の平穏を願った

ボルトでも屈指のサバイバリストないたずらっ娘 琴葉アカネ

核戦争により荒廃した世界を再生させる任務を背負う個性的なボルトのガールたち

ボルトを飛び出し。

さあ、おいでよ、核放射降下物の森へ

「寝坊、寝坊や!!アオイー!」

# 目次

レモネードとナタ、時々すていむ	1
さいせいのひ蛮族市にて!	5

レモネードとナタ、時々すていむ

うちは琴葉茜やー!!

アカネやーあかねやーアカネヤー…やー…やー…やー…

ついに来てもうたな。荒野の世界に…

寝坊には遅すぎたか？

監督官のばあちゃんなんで起こしてくれんのか…それに葵もや…

アオイ…

ああもう！なにがハローアロハこんにちわボンジュールグーテン

タークや！葵の！あほ…！

！zzzzzzzz!!!お姉ちゃん、葵の…なに？

あ。

アオイ!!

お姉ちゃん…

アオイー！こんな固くなってからに！鍛えたんか!?

お姉ちゃん…ボケはいいから…。今話している媒体は

そのボルト入り口に待機させたアイボットの音声を送っているよ

アイボットで…アオイー…：あんたは今どこにおるんや？

ちよつと入り組んだ用事で…チャンネル交信域は…a o i . 0 …

ああ！待って！設計図、が…！zzzzzzzz!!!

葵、あおい。アオイー!!

うち、こんな森の中で…どこに行けば、ええんや。

パーティー帽、ブルーのボルトスーツ…今日生まれて初めて見た太陽は、まぶしかつたで。アオイー…

マップ見た感じ東に町があるみたいや、このふらっとうっずとかい  
う町に行くで！

歩いとつたらなんか色々襲われたでアオイー！

まず最初にトイレットペーパーに足はやして青く塗ったみたいな  
ヤツが近づいて来たんで

見とつたらなんかわからん言葉で叫びながらビーム撃ってきて喰  
らったんで

ボルト前で倒れていたご遺体から拝借したナタでズタズタにした  
で！

そしたら中に挿入してあったエネルギー系弾薬見つけたで！  
脚と腹にビーム喰らってちよつと痛いけど…

そしたら廃墟を見つけて近づいて注意深く観察していると敵接近  
注意が視界の端に映ったから

よう見ってみると

デカイGことラッドローチがおった、幸い群れておらず一匹…うち  
は決断した

はよ銃を手に入れなあかん、ってな。

その廃墟を探索しているとバンジョーが置いてあってな。

じゃんじやか鳴らしてたら

緑色の巨人が発砲してきたんや。

明らかに体格が違う敵。

逃げに逃げてここどこや、思うたらMrハンデイが飲み物売ってっ  
た

叫びすぎてのどカラカラの100キヤップ

レモネード売ったから残り5キヤップや…

途切れたデツカイ橋見つけたんでよく観察しているとゾンビが沢  
山おった。

ぐーるとかいうらしい。

なんか腐乱臭が遠めでも漂ってきたんでお近づきになるのは避けたいからな

橋から距離を取りつつ崖を一気に下ったんや、そしたら二つ頭の鹿とかハダカデバネズミが襲ってきたんで

それらを見無視しつつ一気に走り抜けると……

目の前にレッドロケットスタンドを見つけたんでドア閉めて立てこもったんや

振り返り安全かと思いきや

うちの後ろ室内にグール三体、死を覚悟しつつ格闘戦。

浅くはない傷を負いつつ漏れそうなモツを必死に抑えつつ静かになつた外に出て

医療キットの誰かの置き土産を見つけたんで包帯巻きつつ、これがイヤや

心臓深くまでブスーで『ステイムパック』体細胞高速再生剤を事前講習の通り注入した

これ、原子炉でかくれんぼして左腕欠損した以来やな…

そしたら身体がかゆくて痒くて、それからのどの激しい乾き、残り三本のきれいな水まで使つてもうた。

その辺の川で血を洗い流して

横になつてますます痒くなったからハンガーに掛かっていた服だった布きれとテープで新しく簡易布団作つて

布団の上で横になって扉をロックして散々な一日目は終了やった

翌朝、とんでもない化け物に起こされるまでは……

「……………ん、む」

バルバル煩い音お？タレット…？

それに赤くって丸いやわらかい塊……………？

「お・は・よ・う…アカネちやあん…:…:♪」

抱かれているのはよだれを垂れた巨乳の金髪の女

「ば、ばかな…!」

『マキお・ね・え・さんダヨ?』

「ほんぎゃあああつ!!」

ボルトいち見た目詐欺な残念なお姉さんこと弦巻マキお姉さんが  
目の前に居たのだから

ここは世界一安全ダヨ…ウッフ

危険や!

さいせいのひ蛮族市にて！

あれからいろいろあった

なんか自分が来た日には再生の日とやらは終わっていて他所から人がやってきてごっちゃになってた

他所のボルトからもレジデントがやってきていたらしい

あれから三日もするとPIPB OYを構えた人間がうじやうじやとキャンプ：拠点が軒を連ねていた

「表通りはアカネちゃんはハジメテかな？」

うちは嫌がってもスリスリされたへんたいのことなんてしらへん

「あ、あちらの屋台でシュガーボムが売ってありますね。マキさん、これで買ってきてください」

反対側に居るのはユカリさん、年下のウチにも敬語で話す変わった人で

華奢な見た目にそぐわず筋力とコミュニケーション能力がとてても高い

「は〜イ……。」ホラ早く！

「なんかぐーるとかいいうやつみたいやったな」なんか…

「彼女も反省していますよ？」ね。みたいな顔でニツコリ笑うのは原則や…

「しゅがーぼむ、あまいぶらつくべりーじゅーす……。かってきました  
〜〜〜」

しやあないな

「……助けてくれたんありがとう。スキの部類には入るで…マキねえ」

「……………!!〜!!〜!!〜!!?」



「無言で感動をジエスチャーするのやめなさい…マキさん」

「いらつしやい、レジエンダリー揃えてるよ」

「高すぎねえ？他所の店に…」「お客さん、適正価格、ほら、あそこの店みてよ」

「腹減った、きやつぶない。」「調理器具貸すよ」

「弾薬！0キャップでもいいから！消費してください」

「すごい賑わいやね」

「ここは少ない方ですよ。南部、東部なんかもつとすごいですよ」

「ンツ、ゆかりん」「ハイマキさん」

な、なんや目なんか隠して…

「うめっ」「ミステイクパワーつちやくつちや」「キメるぜ…

うっ、サイコー」

いくらうちでも察しはついた

しばらく拠点を巡ってご飯を食べるためにイートスペース

食堂の一角で買ったものを広げて食べることに

「カエル肉とかゲテモノかと思うたら旨いな」

「マキさんは特殊なスキルを持っていますからね」

「これでもフライ係だったんだから」

へ…

「ユカリさんとマキさんはいまどんなクランで行動してるん？」

「えくと、二人とも同じだよ」

「気が付かれましたか」

「ええ、周りの人素人ちやいますもん」

「これがわが分隊員です」

周りの人たちはどこかしら顔を隠す意匠だったってのもひとつ

「武器は暗器に重火器。多種多様、明らかに互いの背中を預けているカンジですね」

「さすがに監督官をボルト内で探すことを諦めさせたヒトですね」

「…ヌードルカップはずれー、なに、コレ。のびきってる」

「ユカリン…?」

「マキさん?」

「さすがだなお嬢。バラモンステーキでもいかがかな?」

「頂くわ。」

うちもお嬢判定?

「うまかった。このまま、夜やしどこ行くの?」

我々クランの拠点へ行きましょうか

湖…

ほとりだよ

湖の真ん中に巨大基地、ほえー。

橋をおろして、渡る。

兵士たちにお嬢お嬢言われて、マキ姉ユカリさん慕われてんなく。

別の個所ではお酒作ってんのか、兵糧だけでどれだけになるやら。

「お部屋がないのでマキさんのところで今日は眠ってください」

「は〜い。」

「うう、アオイー…恋しわ。」

「あの、そのっ、アンストツパブルズとか見る？一卷から揃えてあるよ。それに…」

ほらっ。かんつつぜんに挙動不審やな

「マキ姉、ほら、一緒に寝よ」

「つつっう、うん！ウン！」

抱き合っつて寝ることにしました。

胸挟まんといて…

「くう……すう」

寝るか…

「てえてえ…」

小隊員。なにをしているかわかっていますかあなたたち

「ひいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい！」

私たち二人は朝起きると12人逆さに吊るされている小隊員の人たちを見て？を浮かべているのです